

社会資本総合整備計画

**災害に強く豊かな環境を育む
安全・安心な地域づくり(防災・安全)**

－ 事後評価 －

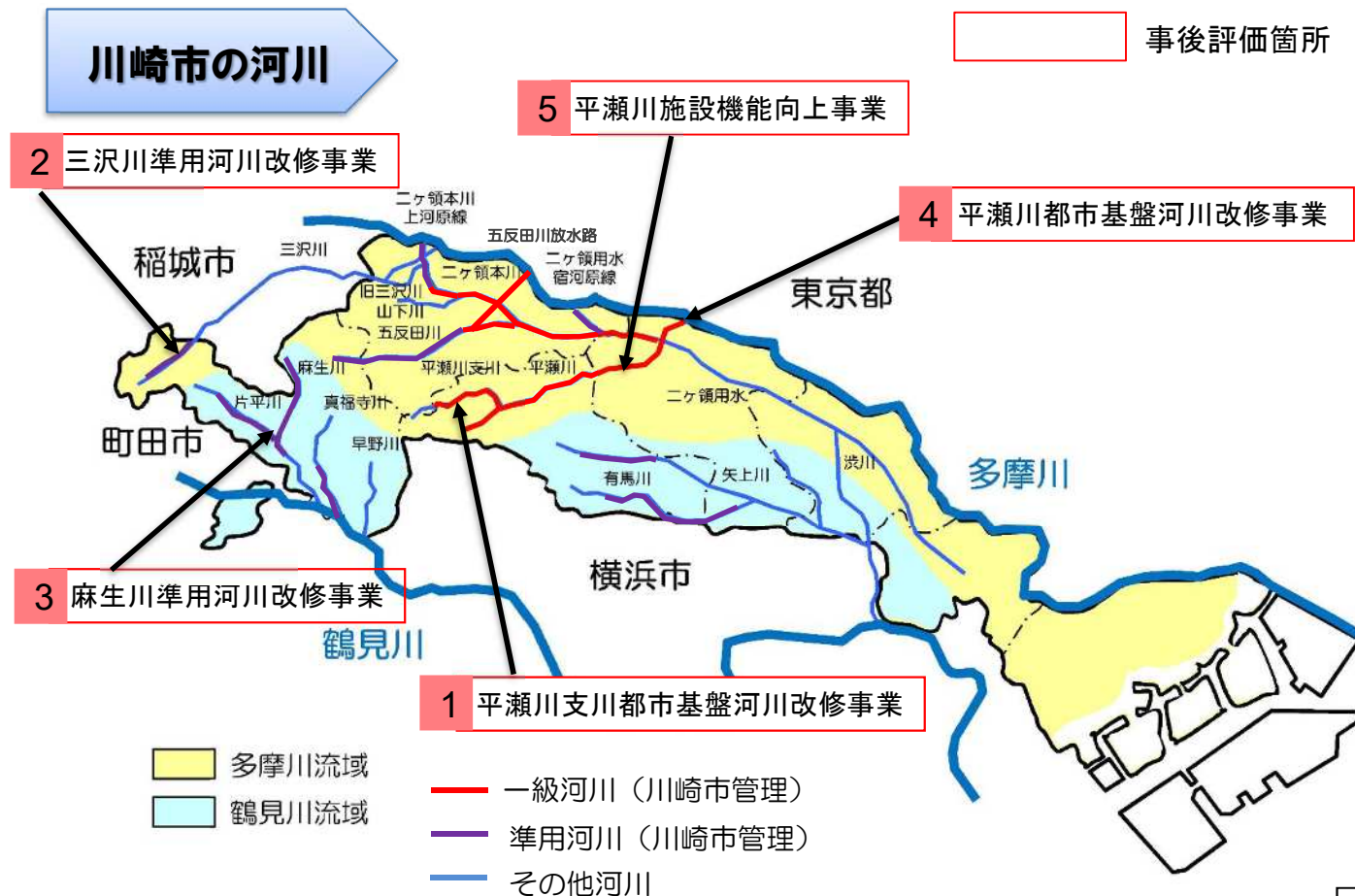
令和6年11月29日 建設緑政局道路河川整備部河川課

目次

1. 計画策定の背景	… 2
2. 社会資本総合整備計画の概要	… 4
3. 要素事業の概要	… 5
4. 各事業の進捗状況	… 7
5. 成果目標の実現状況	…18
6. 事業効果の発現状況	…24
7. 市民に対する意見募集	…25
8. 総合的な所見	…29
9. 今後の方針	…30

1. 計画策定の背景 ～川崎市が管理する河川の概要～

- 川崎市には多摩川水系に属する川（13河川）と、鶴見川水系に属する川（12河川）がある。
- 都市化の進展により治水整備に必要な用地の確保が困難な状況でありながらも、市民の安全確保に向け、治水対策を進めてきた。
- また、平成9年の河川法改正を受け、水質、景観、生態系等の自然環境の向上を見据えた河川改修にも取り組んでいる。



種 類	河 川 名	河川延長(m)
一級河川	平 瀬 川	7,560
	平 瀬 川 支 川	2,330
	二ヶ 領 本 川	6,060
	五 反 田 川	1,480
小 計		17,430
準用河川	五 反 田 川	3,275
	三 沢 川	1,380
	二ヶ 領 用 水（宿）	2,200
	二ヶ 領 本 川（上）	1,200
	矢 上 川	2,480
	有 馬 川	3,635
	真 福 寺 川	1,045
	麻 生 川	2,905
	片 平 川	2,355
	小 計	20,475
普通河川	二ヶ 領 用 水（円）	9,000
	山 下 川	1,590
	旧 三 沢 川	1,995
	平 瀬 川 支 川	1,460
	三 沢 川	460
	洗 川	2,400
	江 川	2,700
	矢 上 川	985
	有 馬 川	1,460
	早 野 川	1,900
	真 福 寺 川	1,455
	片 平 川	425
小 計		25,830
合 計		63,735

宿:宿河原線 上:上河原線 円:円筒分水下流

1. 計画策定の背景 ～川崎市が管理する河川の概要～

○背景

- ・本市の河川整備は、将来的な浸水安全度を達成するために、段階的な整備を行うこととしている。将来計画として、30年に1回程度（時間雨量90mm）の降雨に対応することとしているが多くの河川で既定計画である3年に1回程度（時間雨量50mm）の降雨に対応する改修を行っている。
※将来計画及び既定計画は「川崎市における総合雨水排水対策のあり方に関する答申」（H5.2：川崎市総合雨水排水対策検討委員会）に基づいている。
- ・近年、気候変動の影響による短時間・局地的な大雨や、雨の降り方の変化などにより浸水被害が発生しており、本市でも令和元年東日本台風により甚大な浸水被害が発生した。これらによる被害の最小化に向け激甚化・頻発化を踏まえた治水・浸水対策である、河川改修を着実に進める必要がある。
- ・平成9年の河川法改正により河川管理の目的に河川環境の整備と保全が位置づけられたことを受け、地域の意見を反映した良好な水辺空間の形成を目指して、環境面も含め総合的に事業を推進している。
- ・本市で維持管理している河川のうち約6割が改修後概ね50年を経過し、施設の老朽化が顕著となっていることから、治水安全度の確保のため、老朽化した河川施設の更新を計画的に進めている。

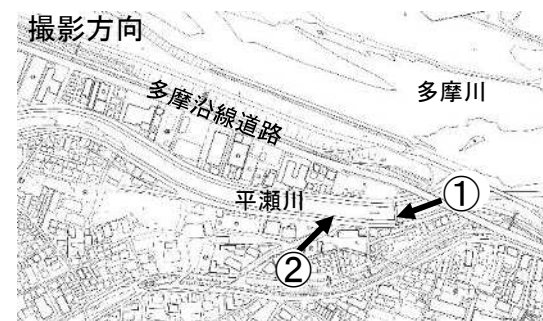
令和元年東日本台風被害状況写真(平瀬川・多摩川合流部)



①多摩沿線道路から平瀬川上流方向を臨む



②霞堤から右岸側の住宅地を臨む



2. 社会資本総合整備計画の概要 「災害に強く豊かな環境を育む安全・安心な地域づくり(防災・安全)」

○計画の目標

都市化が進展し、河川氾濫域における人口・資産の集積化が進む本市において、市民を洪水や浸水の被害から守るため、時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を図る。併せて、多自然川づくりにより都市環境の向上と良好な水辺空間の形成や、施設機能向上を要する河川において護岸の耐震化を図る。

○計画の期間

令和2年度～令和6年度

○要素事業

- ・ 基幹事業：
 - 1 平瀬川支川都市基盤河川改修事業（河道拡幅、自然環境に配慮した川づくり）
 - 2 三沢川準用河川改修事業（河道拡幅）
 - 3 麻生川準用河川改修事業（河道拡幅）
 - 4 平瀬川都市基盤河川改修事業（堤防整備）
 - 5 平瀬川施設機能向上事業（施設機能向上※護岸耐震化）

○要素事業の進捗状況

	計画事業費		執行額	進捗率
	当初(千円)	評価時(千円)	評価時(千円)	(%)
基幹事業	690,000	1,954,000	1,214,000	62.0
効果促進事業	—	—	—	—
全体事業費	690,000	1,954,000	1,214,000	—
	—	—	【財源内訳】 国：522,000 県：164,000 市：528,000	—

3.要素事業の概要 (1/2)

1 平瀬川支川 都市基盤河川改修事業

■河道拡幅

平瀬川支川 多摩区長沢地内

河道拡幅

河道拡幅や河床掘削により時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を推進する。

多自然川づくり

多自然川づくりを進め、親水性や水循環に配慮した構造で整備を推進する。



小動物・小植物の生息場所となる多孔質溶岩を使用した護岸
数年経つと苔などが生息する

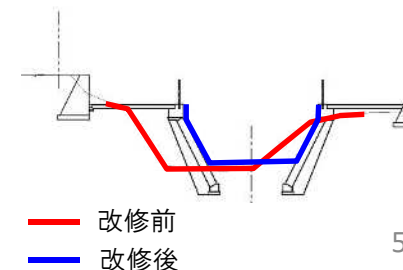
2 三沢川 準用河川改修事業

■河道拡幅

三沢川 麻生区黒川地内

河道拡幅

河道拡幅や河床掘削により時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を推進する。



3.要素事業の概要 (2/2)

3 麻生川 準用河川改修事業

■河道拡幅

麻生川 麻生区上麻生地内

河道拡幅



麻生川のボトルネックとなっている箇所桥梁改修及び周辺の河道拡幅により時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を推進する。



4 平瀬川 都市基盤河川改修事業

■堤防整備

平瀬川 高津区久地地内

堤防整備



多摩川の水位上昇による背水に備え、多摩川の堤防と同程度の堤防を平瀬川に整備する。



5 平瀬川 施設機能向上事業

■施設機能向上

平瀬川 高津区上作延地内

施設機能向上



老朽化した護岸について、地震に強い鋼管杭護岸に改修し耐震化を行う。



4.各事業の進捗状況

1 平瀬川支川 都市基盤河川改修事業 (1/3) ~

事業箇所：一級河川平瀬川支川



4.各事業の進捗状況 ～ 1 平瀬川支川 都市基盤河川改修事業(2/3) ～

河道拡幅・多自然川づくり

○本計画期間中の事業内容

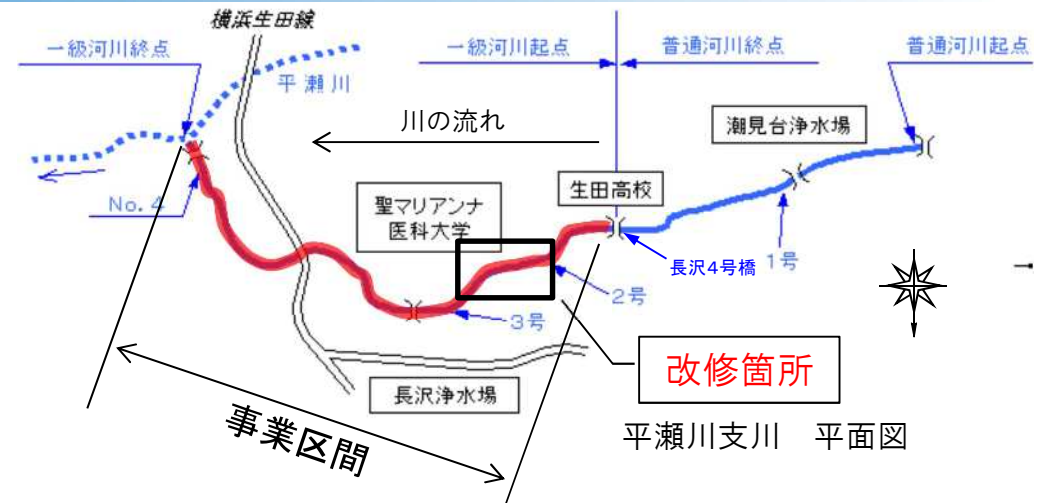
- ・事業区間：平瀬川支川（多摩区長沢）
- ・事業内容：護岸工、用地買収
- ・事業期間：令和2年度～令和6年度

○事業実施内容（実績）

- ・事業内容：護岸工 92m 用地買収 622m²
- 一級河川平瀬川支川延長 2,330m
- 令和2年3月末 整備済み延長 1,607m(整備率69%)
- 令和7年3月末 整備済み延長 1,699m(整備率73%)予定
- ・事業期間：令和2年度～令和6年度

○効果

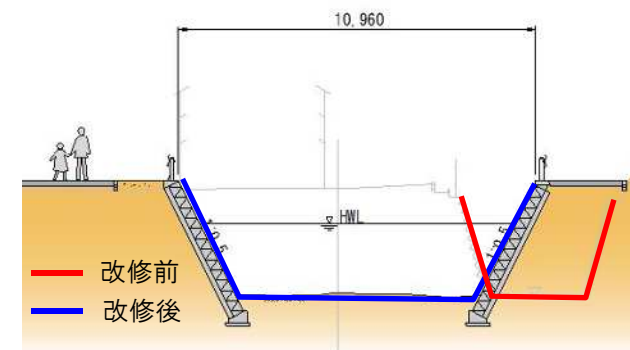
護岸整備を行ったが片側拡幅部が大部分を占めたため河道を拡幅できた区間はわずかであった。また、河道拡幅に際し護岸に、植物の生育や小動物の生息場所となる多孔質の溶岩ブロックを使用することにより、生態系の基盤構築に寄与した。



整備前



整備後



改修前後の河道断面

4.各事業の進捗状況

平瀬川支川

都市基盤河川改修事業(3/3) ~

○令和2年～令和6年整備箇所詳細



両側護岸整備箇所
前後区間が現河道のため擦り付け区間
を要し河道拡幅区間はわずかであった

4.各事業の進捗状況

2

事業箇所:準用河川三沢川



4.各事業の進捗状況 ～ 2 三沢川準用河川改修事業（2/2） ～

河道拡幅

○本計画期間中の事業内容

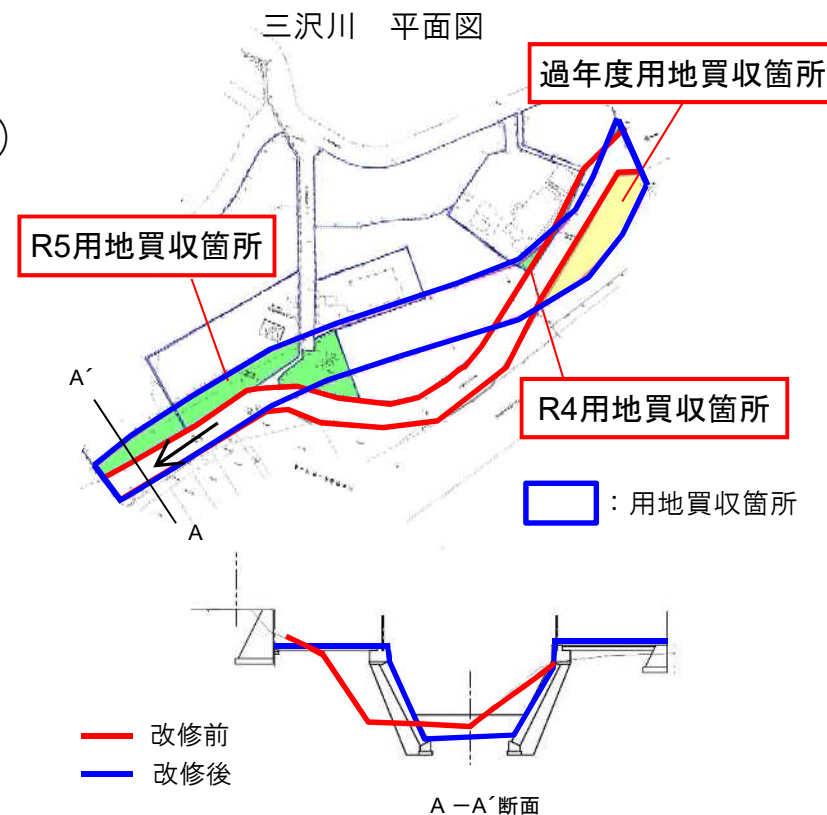
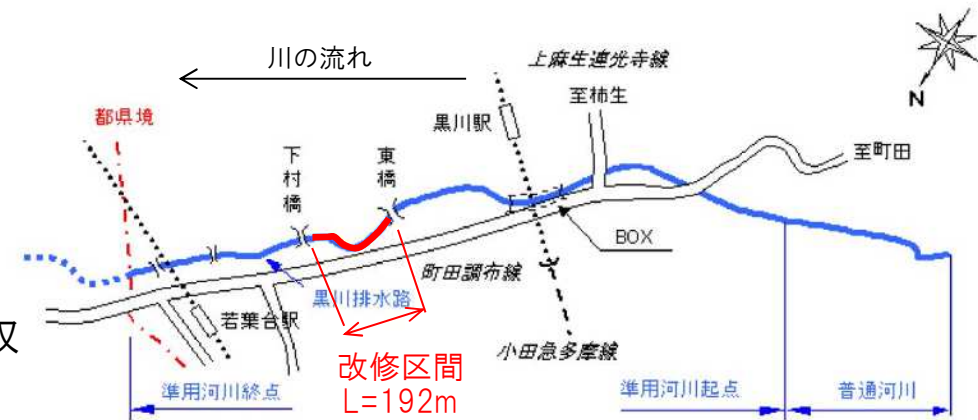
- ・ 事業区間：三沢川（麻生区黒川）
- ・ 事業内容：測量委託、設計委託、用地買収
- ・ 事業期間：令和2年度～令和6年度

○事業実施内容（実績）

- ・ 事業内容：測量委託、設計委託、用地買収(730m²)
 - 令和2年3月末用地取得率 19%
 - 令和7年3月末用地取得率 58% 予定
- ・ 事業期間：令和2年度～令和6年度

○効果

時間雨量50mm相当の降雨に対応可能な河道を整備するための測量、設計、用地買収を進めた。引き続き、事業の完了に向け取り組んでいく。



4.各事業の進捗状況 ～ 3 麻生川 準用河川改修事業（1/2） ～

事業箇所：準用河川麻生川

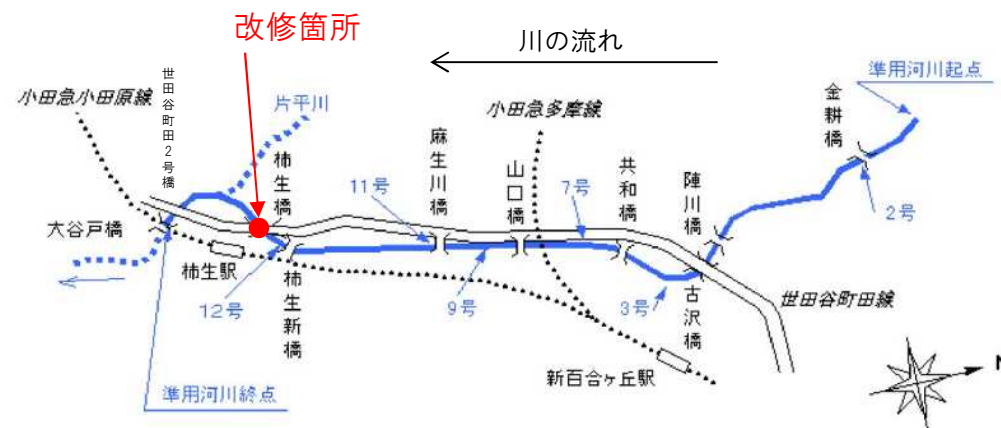


4.各事業の進捗状況 ～ 3 麻生川 準用河川改修事業（2/2） ～

河道拡幅

○本計画期間中の事業内容

- ・ 事業区間：柿生橋（麻生区片平）
- ・ 事業内容：橋梁架替、河道拡幅
- ・ 事業期間：令和2年度～令和6年度



○事業実施内容（実績）

事業内容：橋梁架替 1 橋 河道拡幅 10m

準用河川麻生川延長 2,905m

令和2年3月末 整備済み延長 2,885m（整備率 99.3%）

令和7年3月末 整備済み延長 2,895m（整備率 99.6%） 予定

事業期間：令和2年度～令和6年度



柿生橋架替前

○効果

柿生橋の架け替えが完了したことにより、河道断面が時間雨量50mm相当に対応できるようになったことから、治水安全度が向上した。



橋梁架替後

4.各事業の進捗状況 ～ 4 平瀬川 都市基盤河川改修事業（1/2） ～

事業箇所：一級河川平瀬川



4.各事業の進捗状況 ～ 4 平瀬川 都市基盤河川改修事業（2/2） ～

堤防整備

○本計画期間中の事業内容（令和6年度追加）

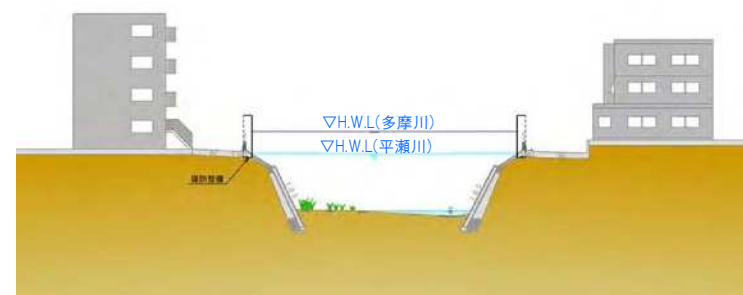
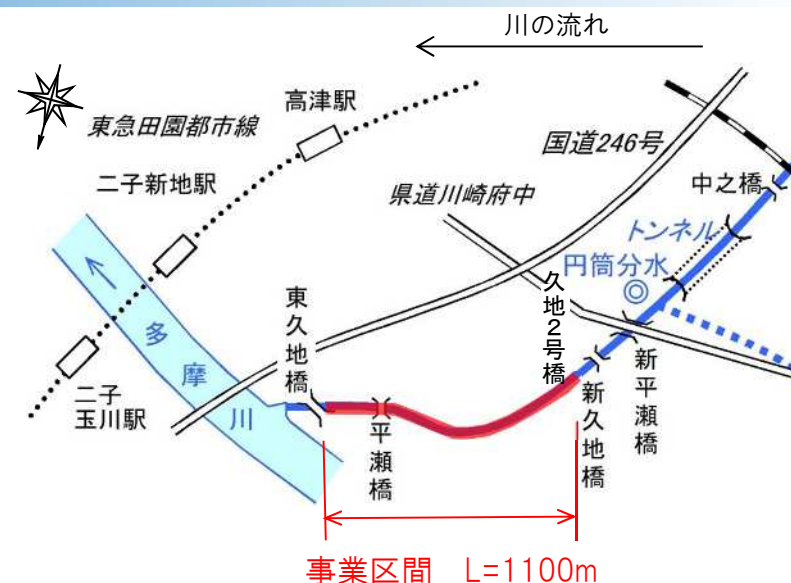
- ・ 事業区間：平瀬川（高津区久地）
- ・ 事業内容：仮設工
- ・ 事業期間：令和6年度

○事業実施内容（実績）

事業内容：仮設工（準備工）
事業期間：令和6年度

○効果

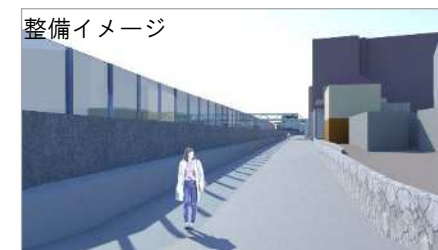
令和元年東日本台風により甚大な浸水被害が発生した平瀬川・多摩川合流部について、早期に治水安全度の向上を図るため、多摩川の堤防と同程度の堤防整備に向け、令和6年度は準備工を実施した。引き続き、事業の完了に向け取り組んでいく。



河川整備のイメージ（平瀬川）



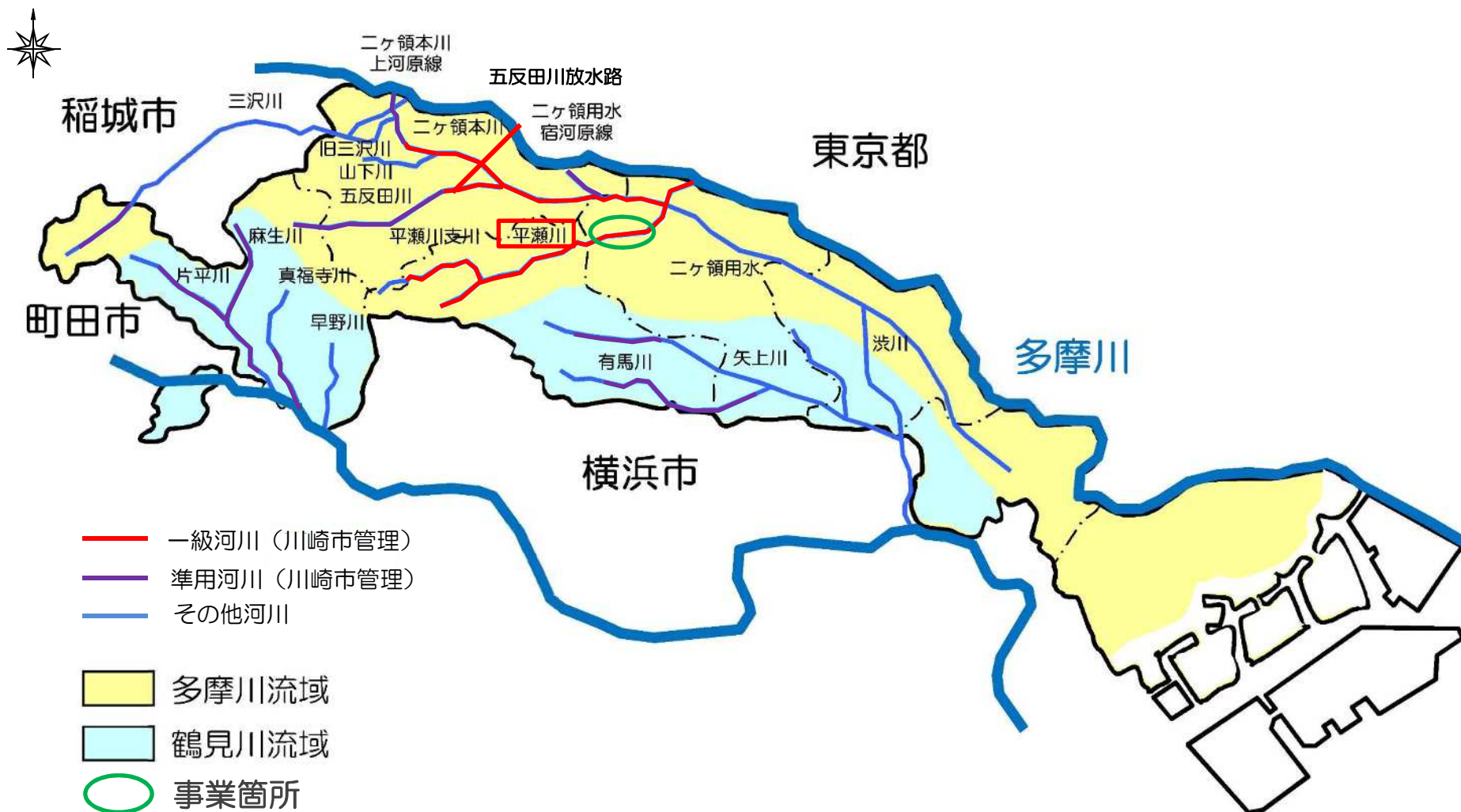
整備前



整備後

4. 各事業の進捗状況 ～ 5 平瀬川 施設機能向上事業 (1/2) ～

事業箇所: 一級河川平瀬川



4.各事業の進捗状況 ～ 5 平瀬川 施設機能向上事業 (2/2) ～

機能向上（護岸耐震化）

○本計画期間中の事業内容（令和3年度追加）

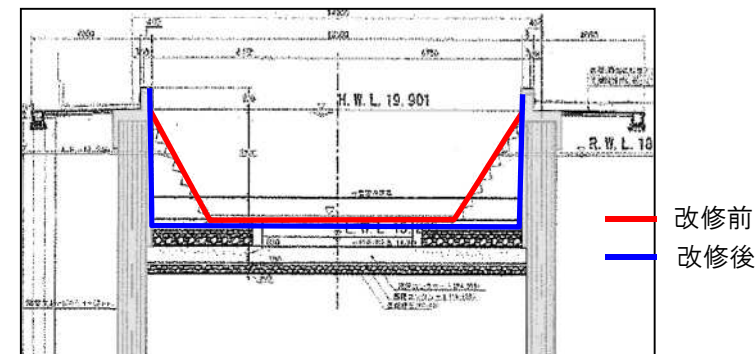
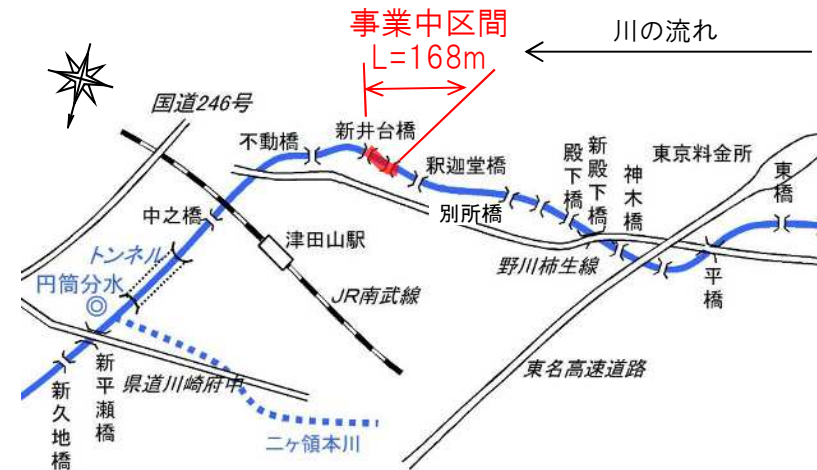
- ・ 事業区間：新井台橋～前橋（高津区上作延）
- ・ 事業内容：護岸耐震化
- ・ 事業期間：令和3年度～令和6年度

○事業実施内容（実績）

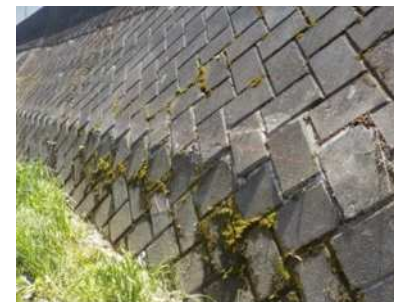
- ・ 事業内容：護岸耐震化
- 耐震化対策延長（事業中区間）168m※
- ※護岸は河川の両岸（右岸・左岸）に対して行うため
河川延長である168mの2倍が対策予定延長となる
- 対策済み延長 40m（令和7年3月末）
- 耐震化率 11.9%（令和7年3月末）
- ・ 事業期間：令和3年度～令和6年度

○効果

老朽化した護岸を耐震化することにより
地震時の治水安全度が向上した。



平瀬川横断面図



護岸の変状（整備前）



整備後

5.成果目標の実現状況 ～評価指標の設定～

評価指標（計画に記載した指標）

関連要素事業：1 平瀬川支川 2 三沢川 3 麻生川

指標1 浸水想定面積 浸水が想定される面積を算定する。（単位：m²）

定義

改修計画を策定した流域における時間雨量50mmによる浸水想定面積

算定

過年度の氾濫解析結果を元に、浸水が想定される面積を算定する。

関連要素事業：1 平瀬川支川 2 三沢川 3 麻生川

指標2 浸水想定家屋数 浸水が想定される家屋数を算定する。（単位：戸）

定義

改修計画を策定した流域における時間雨量50mmによる浸水想定家屋数

算定

過年度の氾濫解析結果を元に、浸水が想定される区域内の家屋数を算定する。

関連要素事業：1 平瀬川支川

指標3 水質調査 多自然川づくりを推進する河川の水質について「川崎市水環境保全計画」の環境目標を基準とする評価（評価：Ⅰ～Ⅲ）

定義

本市環境局が実施している水質等の定点観測値（BOD、COD、生物種等）の変化

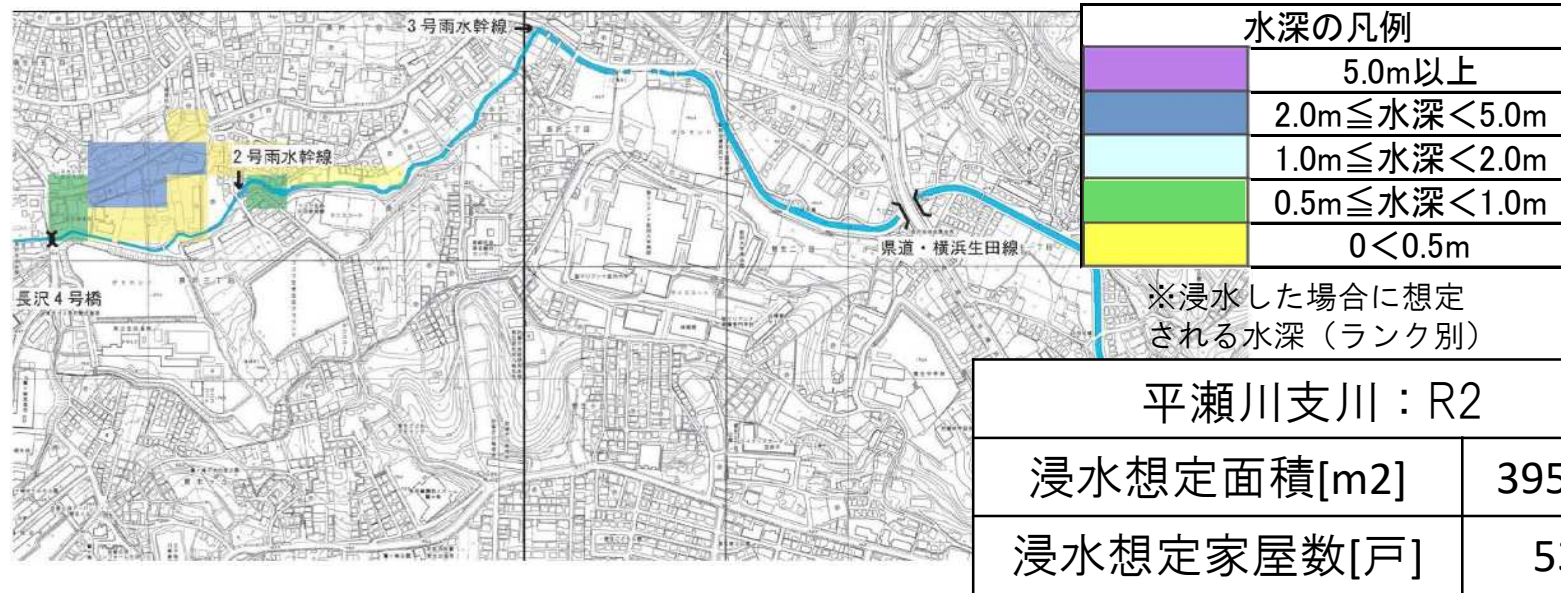
算定

「川崎市水環境保全計画」における環境目標を基準とし3段階の評価を実施する。

5.成果目標の実現状況

○過年度氾濫解析結果による浸水想定面積と浸水想定家屋数／ 1 平瀬川支川

※時間雨量50mm



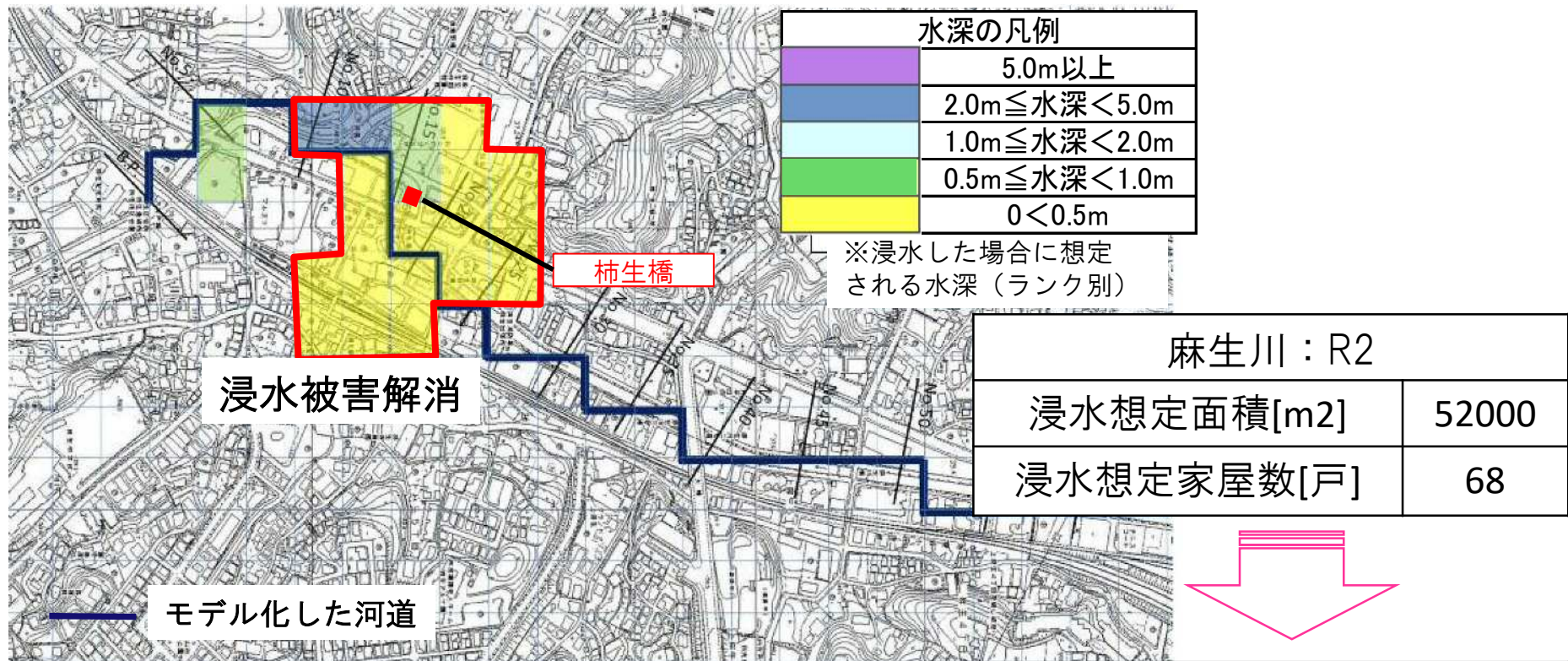
未整備区間の下流側の未買収地の用地取得が令和6年度になり、今回計画期間内では片側のみ護岸整備を行った区間が大部分を占めたため計画期間内の整備が、浸水想定面積と浸水家屋数の減少に寄与することができなかった。（氾濫解析未実施）

平瀬川支川：R6	※()は目標値
浸水想定面積[m2]	39500 (35300)
浸水想定家屋数[戸]	53 (45)
目標達成状況	未達成

5.成果目標の実現状況

○過年度氾濫解析結果による浸水想定面積と浸水家屋数の算定 / 3 麻生川

※時間雨量50mm



柿生橋架替えにより浸水想定面積47000m²、
浸水想定家屋数67戸の浸水被害が解消された。

麻生川：R6 ※()は目標値	
浸水想定面積[m2]	5000(5000)
浸水想定家屋数[戸]	1 (1)
目標達成状況	達成

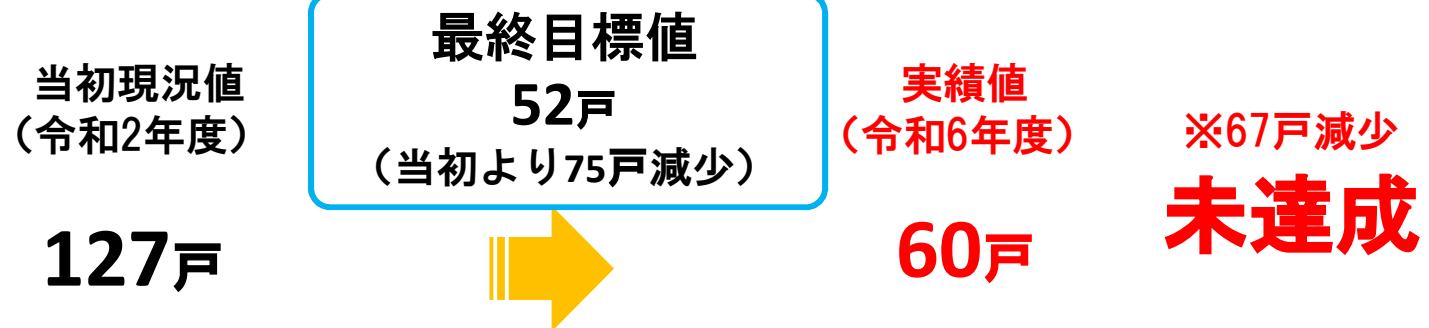
5.成果目標の実現状況

～目標達成状況(1/3)～

指標1 浸水想定面積 (m²) 関連要素事業：1 平瀬川支川 2 三沢川 3 麻生川



指標2 浸水想定家屋数 (戸) 関連要素事業：1 平瀬川支川 2 三沢川 3 麻生川



結果：(指標1)浸水想定面積(指標2)浸水想定家屋数ともに、目標値に対して未達成
未達成の主な要因は、(要素事業3)麻生川の柿生橋が完成し、浸水想定面積・浸水想定家屋数が大幅に減少したが、(要素事業1)平瀬川支川については護岸改修を進めたものの、片側のみ護岸整備を行った箇所が大部分であり指標に寄与しなかったためである。
(要素事業2)三沢川河川改修事業については計画期間内は用地買収のみ実施であるため指標達成への寄与はなかった。

5.成果目標の実現状況

～目標達成状況 (2/3)～

指標3 水質調査

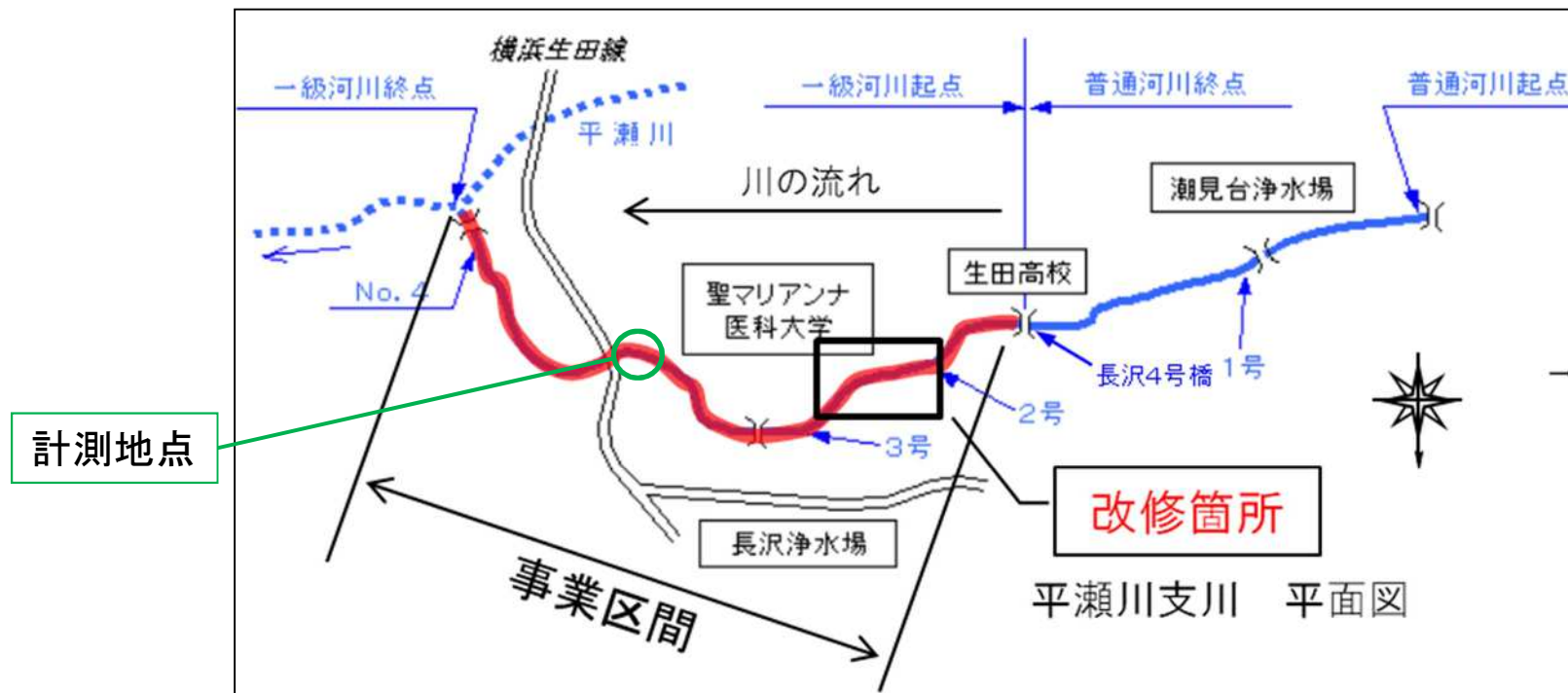
関連要素事業：1 平瀬川支川

(定義) 本市環境局が毎年実施している水質等の定点計測値 (BOD、COD、生物種等) の変化

(算定) 「川崎市水環境保全計画」における環境目標を基準とし、

I：水遊びのできる川 II：魚などの生き物に親しめる川 III：散策できる川
の3段階で評価する。

(計測地点) 平瀬川支川 下長沢橋



5.成果目標の実現状況

～目標達成状況 (3/3)～

○ 計測結果

	BOD(mg/L) 生物化学的酸素要求量	COD(mg/L) 科学的酸素要求量	大腸菌群数(MNP/100mL) 大腸菌数(CFU/100mL)	参考 生物(魚類)
R2調査	0.7	2.1	11000 (MPN)	ドジョウ・スミウキゴリ ヌマチチブ
R2評価	I	I	II	
R5調査	0.8	2.6	25 (CFU) ※	アユ・ドジョウ スミウキゴリ・オイカワ カワヨシノボリ
R5評価	I	I	I	
I 評価基準	3以下	3以下	1000以下 (MNP) 300以下 (CFU) ※	-

※令和4年に環境基準で衛生的安全指標である大腸菌群数が大腸菌数へ見直しされた。

環境基準の水浴の基準値は大腸菌数 300CFU/100mL以下のためこれを準用する。

当初現況値
(令和2年度)

最終目標値
I 評価

実績値
(令和6年度)

II 評価を含む



全て I 評価

達成

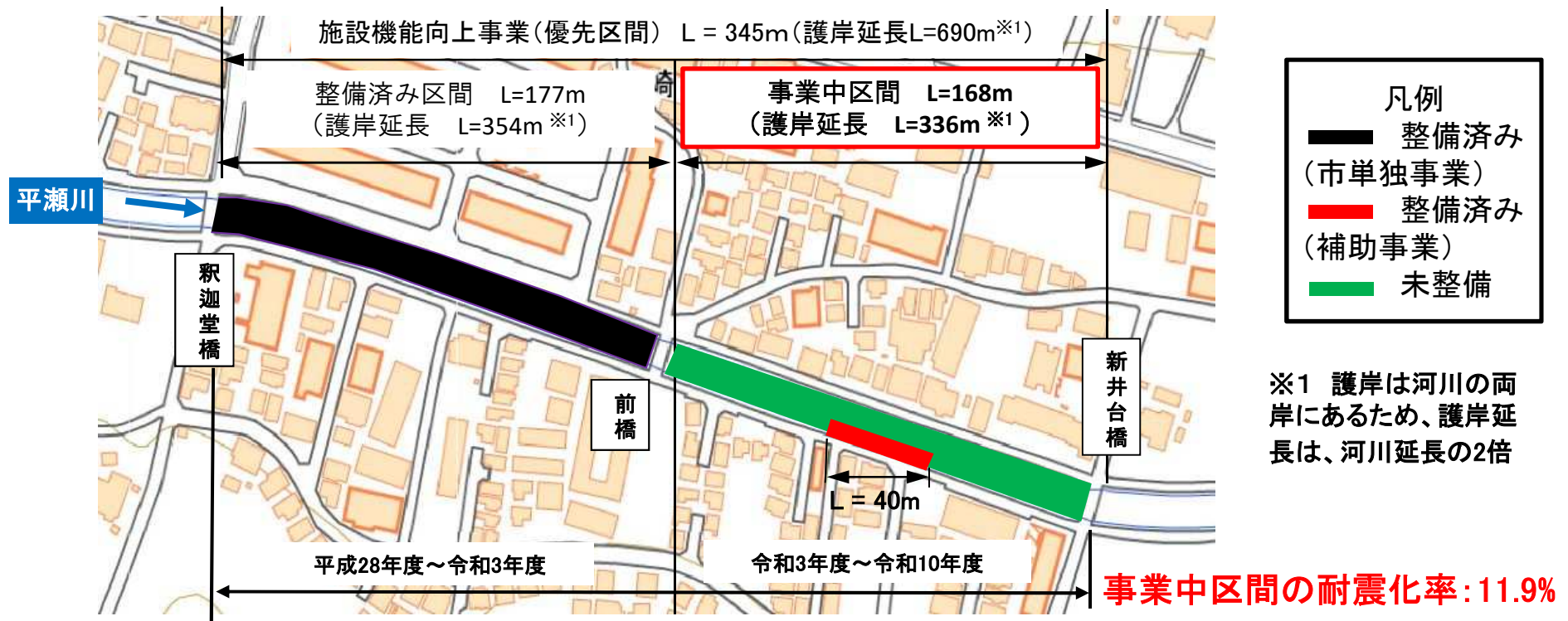
※平瀬川支川の河川整備工事による環境への負荷がないことや、
多自然川づくりの推進による環境改善への寄与について確認できた

6.事業効果の発現状況

評価指標（計画で設定した以外の指標）

補足指標 事業中区間の老朽化護岸の耐震化率(平瀬川)
(定義) 事業中区間のうち鋼管杭護岸に改修した割合
(算定) $(\text{鋼管杭護岸延長} / \text{事業中区間延長}) \times 100 (\%)$

関連要素事業：5 平瀬川



住宅密集地域で狭小な堀込式護岸のため、大規模地震が発生し護岸が被災した場合、早期復旧が困難な上、護岸崩壊に伴う河道閉塞による溢水の可能性があり、治水安全上の危険を抱えていることから、老朽化した護岸を耐震化構造に更新し、事業中区間の耐震化率は11.9%となった。なお、事業としては、平成28年度から市単独費で進めており、優先区間の耐震化率は57.1%※²になった。

(※2 施設機能向上事業 優先区間 耐震化率 $(354+40) / 690 \times 100 = 57.1\%$)

7.市民に対する意見募集 ～調査概要（1/2）～

○ 調査 1

- ・ 実施期間：令和6年8月7日～8月20日
- ・ 事業「（要素事業1～5）」の認知、効果、要望等の意見を集約する。

調査方法

ウェブアンケートにて、市民向けアンケート調査を実施

対象事業

要素事業1～5

主な対象者

高津区、宮前区、多摩区、麻生区に在住の市民

目的

事業箇所に関する区在住の市民の意見を集約して、今後の事業周知等に活用 ※在住区以外の事業の認知度も調査実施

○ 調査 2

- ・ 実施期間：令和6年8月1日～8月8日
- ・ 平瀬川施設機能向上事業（要素事業5）の効果、要望等の意見を集約する

調査方法

工事の週間工程表と併せてアンケートを配布（住民250戸）

工事現場付近にアンケート用紙を設置

※該当範囲の住民から紙面実施を希望されたため

対象事業

要素事業5

主な対象者

工事区間の河川管理用通路沿いの住民・通行人（高津区上作延）

目的

工事の受益者の意見を集約して、今後の事業周知等に活用

7.市民に対する意見募集～調査概要(2/2)～

○ 各調査共通の主な質問事項

◎要素事業について

（ 1 平瀬川支川、 2 三沢川、 3 麻生川、 4 平瀬川、 5 平瀬川（施設機能向上） ）

（認知） ・ ○○○整備事業を知っていますか？

（効果） ・ 現在も事業中ですが、何か効果を感じたことはありますか？

（要望等） ・ ○○○整備事業について、御意見があれば教えてください。

7.市民に対する意見募集 ～調査結果（調査1）～

調査1の調査結果

対象：事業箇所（要素事業1～5）に関する区

（高津区、宮前区、多摩区、麻生区）在住の市民※1 ※1他区の事業の認知度も調査対象

回答者数：n=600人

平瀬川支川

・知っている：44人（7.3%） ・効果を感じたことがある：18人（41%）※2

三沢川

・知っている：19人（3.2%） ・効果を感じたことがある：5人（26%）※2

麻生川

・知っている：35人（5.8%） ・効果を感じたことがある：13人（37%）※2

平瀬川

・知っている：70人（12%） ・効果を感じたことがある：24人（34%）※2

平瀬川施設機能向上

・知っている：44人（7.3%） ・効果を感じたことがある：19人（43%）※2

※2 効果を感じてる回答者数/各事業を認知している回答者数

【主な結果】

認知：各事業について「知っている」との回答が1割程度

効果：事業を認知している人の4割程度は、事業効果を感じている

傾向：近年被害があった平瀬川は、説明会を行っており比較的に認知度が高い

要望：台風やゲリラ豪雨時の安全性の向上・工事の安全対策・早期の工事完了
生態系等に配慮した工事

【結果を踏まえた対応方針】

- ・説明会やホームページ等の掲載などにより河川事業の周知を行う
- ・今後も工事中の浸水に対する安全対策の実施、生態系等に配慮した工事を進める
- ・早期の治水安全度の向上への要望に対し、着実に事業を進める

7.市民に対する意見募集 ～調査結果（調査2）～

調査2の調査結果 平瀬川施設機能向上事業(要素事業5)

対象：施設機能向上事業（優先区間）の河川管理用通路沿いの住民・通行人
（回答：22人（住民20人、通行人2人））



【主な結果】

効果：工事の有効性については7割以上が
「工事は有効だと思う」回答であった

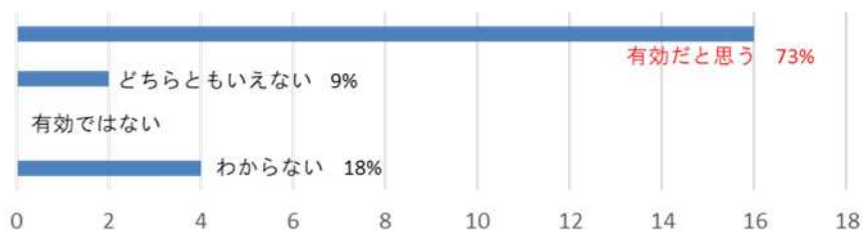
要望：早期の工事完了

工事中の安全確保

【調査結果を踏まえた対応方針】

- ・事業効果の認知はされているため、事業費の確実な確保とともに、早期の工事完成を目指して安全に工事を進める。

平瀬川護岸改修事業は、護岸の変状への対策として有効だと思いますか。(単位：人)



8.総合的な所見

○ 計画の成果目標の達成状況に関する所見

● 浸水想定面積

目標51200m²減少に対して、河川改修により47000m²減少（未達成）

● 浸水想定家屋数

目標75戸減少に対して、河川改修により67戸減少（未達成）

● 水質調査

目標評価Ⅰに対して、評価Ⅰ（達成）

○ 補足指標の達成状況に関する所見

● 平瀬川の護岸耐震化率

令和3年度より事業を進めている事業中区間の護岸耐震化率は、令和7年3月末時点で11.9%

平成28年度より事業を進めている優先区間の護岸耐震化率は57.1%

令和7年度以降も、引き続き、護岸の改修工事を進めていく必要がある。

○ 市民に対する意見募集に関する所見

● 河川の事業に対する認知度が低いため、周知方法を検討する。（調査1）

● 早期の治水安全度の向上への要望に対し安全に留意しながら着実に事業を進める。（調査1、2）

○ 総合的な所見

● 河川事業に対する認知度が低いことから、周知方法について見直しが必要である。計画の成果目標の達成状況については、水質調査のみ達成した。浸水想定面積と浸水想定家屋数が未達成となったが、平瀬川支川都市基盤改修事業の用地取得に不測の時間を要したことが原因と考えており、今後も事業の必要性について丁寧な説明を行い、地元の理解を得るよう交渉していく必要がある。追加事業である平瀬川施設機能向上事業により護岸の耐震化率が11.9%となったが、今後も引き続き耐震対策を推進し、早期の治水安全度の向上に向け取り組んでいく。

9. 今後の方針

○ **次期計画** 計画期間令和7年度～令和11年度の整備計画を検討中

○ **未整備箇所の事業推進**

- 1 平瀬川支川：河道拡幅を進め時間雨量50mm相当の河道断面を確保することにより治水安全度の向上を図るとともに多自然川づくりを進める
- 2 三沢川：用地買収を進めるとともに、時間雨量50mm相当の降雨に対する河川改修工事に着手し、治水安全度の向上を図る
- 3 麻生川：世田谷町田線の道路拡幅に併せ、残り1橋（世田谷町田2号橋）についても架け替え及び、前後区間の護岸改修を行い治水安全度の向上を図る
- 4 平瀬川：多摩川の水位上昇による背水に備え、多摩川の堤防と同程度の堤防を整備することにより治水安全度の向上を図る
- 5 平瀬川（施設機能向上）：老朽化した護岸の耐震化率を上げることで地震時の治水安全度の向上を図る